

令和7年度 第2回長岡京市スポーツ推進審議会

○日時:令和8年3月23日14:00~15:30

○場所:長岡京市役所8階 会議室802

○出席者:山本委員、中村委員、折萩委員、河原委員、中澤委員、小山委員、山田委員、春名委員、名原委員、飯牟礼委員、黒柳委員、事務局(順不同)

○欠席者:鬼村委員、大木委員、畑委員(順不同)

○事務局:教育長 西村

教育部長 中島

文化・スポーツ振興課長 宮崎

同 係長 鈴木

同 主事 三宅

同 主事 江森

○傍聴者:なし

○内容

1. 開会

(1) 教育長あいさつ

2. スポーツ推進審議会

(1) 会長のあいさつ

(2) 報告事項

①令和7年度スポーツ振興について

②令和8年度スポーツ関係予算について

③部活動地域展開について

3. その他

○議事の内容

1. 教育長あいさつ

2. 会長あいさつ

3. 報告事項

①令和7年度スポーツ振興について

(事務局)

資料1の内容を説明。

(委員)

スポーツ推進計画目標達成状況の子どもの体力向上の部分はどうに調査したのか。

(事務局)

市内学生の種目平均をとり、京都府の平均と比較している。

性別や年齢によって分けられている。

(委員)

体力面で、長岡京市にはどのような特徴があるか。

(事務局)

種目別にみると、走る系の種目が平均より高い傾向にある。

(委員)

取組状況の資料では、もう少し達成できている項目があるのではないか。

情報の発信がどういった基準で○になるのか。

(事務局)

当該資料は、取組状況を可視化したはじめての試み。

今回委員の皆さんのご意見をお聞きして、アップデートしていきたい。

(委員)

準備・お手伝い参加の推奨の項目については、高校生が手伝ってくれている。積極的にしてくれるので準備等は高校生あってこそ。

お手伝いの件は○で良いかと思う。

デジタル化は担い手側同士での連絡をデジタル化ができればよいかと思う。

こういったデジタル化があるよという共有少しずつできればよいのでは。

(委員)

スポーツ推進計画目標達成状況の基準について、もう少し評価基準をわかりやすくしていければ良いかと思う。

(委員)

スポーツ推進委員の活動の中で、ポールハイキングのみが記載されているが、実技研修棟も行っており、障がい者も多く参加される。そういった意味では障がい者スポーツの項目も取り組んでいることになるのでは。

(委員)

今年度のおとくにクラブフェスタでは、民間企業も協力されていた。おとくにクラブのフェンシングのアスリートを発掘するという活動に協力されている。市民のスポーツ振興にも力を入れて取り組まれていると聞いている。

②令和8年度スポーツ関係予算について

(事務局)

資料2の内容を説明。

(委員)

施設設備の完成等は予算規模が大きい。
補助金等は特段変化なしで良いか。

(事務局)

例年通り変化なくそのままの額になっている。
事業費の予算の中で来年度より部活動地域展開のコーディネーターを雇う予定だが、人件費になるので事業費として予算は計上されていない。

③部活動地域展開について

(事務局)

資料3の内容を説明

(委員)

試行の4競技で1番難しかったことや困ったことがあれば教えてほしい。

(事務局)

休日に学校開放で体育館や武道場を使用しているので、場所の確保が難しかった。空いているところを見つけ、その日に来れる指導者を確保するという場所と人の両立も難しかった。

(委員)

指導者の連絡体制や参加者の募集方法はどのように行っていたか。

(事務局)

連絡体制も、手探りではあるが、基本的にはメールで団体に連絡。参加者はホームページ等で募集していた。

(委員)

指導者の確保、場所の確保は誰が行っていたのか。

(事務局)

行政職員が行っていた。市役所は情報が集まる場所なのでやりやすい部分はあるが、空いているところを見つけるのが大変だった。

(委員)

コーディネーターの費用は人件費。今後も継続してとなると莫大な費用がかかると思うがどのように考えているか。

(事務局)

国の方針は受益者負担だが、現段階では国の部活動地域展開にかかる補助金も確保できる。コーディネーターの費用についても補助金の対象となる。地域展開後のチームの独自の活動については受益者負担になるのかなと思う。

(委員)

部活動地域展開の試行事業で使用していた場所は小学校・中学校のどちらを使っていたのか。

(事務局)

両方使用していた。その時に空いている場所を使っていた。本来であれば固定したいところ。

(委員)

小学校区は予定が密になっているので、そこは行政と調整する必要がある。それでも場所が足りない際は、西山公園体育館やスポーツセンターの使用となるのか。今後、学校開放のルールを変えていかないといけないと思う。行政が無理やり枠を取ってくると地域に不満がたまるので、しっかりと話し合っただけでルール化していくほうが良い。

(委員)

部活動地域展開にかかる状況は市町によって変わる。国の方針の中で、やりたいことができない子どももある。そういった対応も必要になる。

(委員)

認定クラブは市が認める予定か。

(事務局)

その予定をしている。

(委員)

令和8年度以降の3～5年の流れを次回示してほしい。

(委員)

部活動地域展開は場所や財源等のこともあり非常に難しい問題。

京都市は令和10年からクラブ活動廃止する予定。長岡京市も方針を出していかなければならない。

今あるクラブをどのように生かすのか。子供たちにとって遊びの中からやりたいことをできるようにしていかないといけない。

(委員)

指導者バンク的なことは検討しているのか。

(事務局)

乙訓地域でどうするかはまだ決まっていない。

京都府でやってほしいかなと思っている。府に言っていないといけない。

(委員)

市町の中に子供がいない等があるので、市町村を越えてクラブを作っていないといけないが、それもなかなか難しい。

場所によっては、なかなか送り迎えができないので活動が難しかったりというのもある。

長岡京市なら子供が自分たちで活動場所にいけそうかなと思う。

(委員)

全中がなくなる種目はなにか。

(委員)

2027年から相撲や水泳が全中から外れる。学校単位で行うことが難しい種目がなくなっていく。

県内や発表の場をどう確保していくかは課題になる。

(委員)

中学校は育てるうえで大事な時期。顧問と子供の関係性など、のこせるなら残せるようなやり方ができれば良いが。

(委員)

強化目的で取り組むようなチームは認定クラブチームとしてはダメなのか。

(事務局)

国が示しているガイドラインに従って決めていくこととなる。その中で活動時間等を見て排除していくことになる。

(委員)

団体によっては、施設を持っているという強みを生かして様々な種目を指導している事例もある。部活よりも満足度の高い取り組みができるような時間帯を設けようと検討している。公営の施設の貸し出し方を工夫していかなければならない。

(事務局)

指導者はどういった方がされているのか。

(委員)

競技団体に声掛けなどを行い、振興事業としてやってくれている人もいれば、協会に投げかけて手伝ってくれそうな方をお願いしたりしている。

(事務局)

全中学校の生徒が対象なのか。

(委員)

そう。できればほかの施設にも協力してもらい活動できる場所を増やしていければと考えている。長岡京では高校等も複数あるので使えるのではないかな。

4. 閉会